



ことです。一度目的、目標を決めたらやり続けることが必要です。

そして、局長はご自分が続けた実践を話して下さいました。

―研究所へ入所が決まり、熊本の、家族みんなで暮らす生活から離れなければならなくなった時、どうしたら両親と心をつなげることができのかを考え、毎日葉書を書くことにしました。そして、葉書一万枚を達成しました。三十年です。すでに父は亡くなり、母も入院しています。葉書の受け取り手がいません。そこで姪に頼んで家に住んでもらい、葉書を出し続けました。一万枚を達成した後は、葉書を出すのは止めて、手帳に両親の写真を入れ、毎日数行、手帳に両親宛の葉書のような文を書いていきます。

実践とは、自ら変わることです。そのやり方は『万人幸福の葉』に網羅されています。―

私どもは局長のお話しを一言も聞き漏らすまいと真剣にお聞きしました。何と分かります、けれど何と深いことでしょう。自己革新がなければ、自分

が状況を変えなければ何も変わらない、その方法は『葉』に書いてあり、その練習は「朝の集い」です。そのだと、明確におつしやってくださいました。

倫理を学ぶ幸せをもっとたくさんの人に知ってもらいたいと心に強く思った講話でした。

(参加者二十四名)  
(ホン史子記)

### 純粋倫理勉強会

―きちんとしたあと始末―

地球の遠く南から北上してきたにもかかわらず、いつもの素晴らしい声で「今朝の Los Angeles は初夏を思わせるいい天気です。Brazil では秋になるのに暑い日々でした。」から始まり、伏木先生の長旅の疲れは感じられませんでした。

梅本和子さんの進行で会長はじめ十四名出席。本題の「きちんとしたあと始末」ではまず、病気のときとか苦難のときには心の整理が必要であることを説明されました。心の整理ができないときには、身の回りのものを整理していると、心のほうが後から整理できてくる。乱雑な

部屋にいと心もそのとうりになつてしまうことでした。

万人幸福の葉の輪読では九十三頁の「立つ鳥は跡をにぞさず」から九十五頁の「昔の人は死を重んじ―」見事

な死にようをした人は、見事な一生を貫いた人である。」までをゆつくり数人で読みました。

とりわけ筆者にとつては「あと始末は他の誰のためでもなく、自分自身のためにおこなう。」という説明が奥深く響きました。

あと始末をキチンとすること

はたんに身だしなみとか行儀作法といっただけのものではなくその人の幸福を作ることにつながっている。毎日、実行をした人が当然の結果として、見事な生き方をした人であり、さらにその続きの結果として見事な死にかたをした人であると云われました。

私のノートの書き違いをしていたら失礼ですが、伏木先生は「老いるとは、命を続けてきた人」で自然にまかせて、先を急ぐなということ。自分の「我」を捨てていくと「神」に近づく。

神に近づくということは人間の力が弱くなるから自分の我をはらなくてすむ。歳をとつて我がつよくなると「頑固じじい」とか「頑固ばばあ」になるそうです。

アメリカ大リーグでまだ活躍しているイチローさんは、その日の野球が終わったら、使ったグローブをていねいに拭いて、

あと始末をしています。超一流の人の実行している話を最後に、出席者全員が来てよかったと笑顔をうかべて、土曜日午前の特別講座が終わりました。

(大竹信雄記)

### 実践報告の内容

① 感謝があること

倫理にご縁があり、実践することによって現在こうなっている、感謝の毎日です。

② 宣言すること

まだまだ実践中であるが、達成までがんばります。

③ 自慢話にならないこと

伏木久登部長は、朝の講話の中で実践報告の注意点を話してくださいました。実践しましょう。

### 意見交換会

三月十二日(土) 午前十時より十二時まで、伏木久登部長を囲み、色々なことを話し合った。

○子育てセミナーについて  
共働きの母さんにアプローチし、若い人との接点を見出し、ニーズに合ったやり方を考える。セミナーの時間帯、雰囲気、内容などを検討する。

○高齢者の方々について  
高齢者の方々にも呼びかけ、高齢者セミナーの実施を考えよう。実践によって心豊かな毎日が過ごせる、その実践のあり方など。

○普及の仕方  
直接的なアプローチと間接的なアプローチの実践。  
間接的とは、広告・広報活動。講演会・セミナーなど。

その他、新たな集いやセミナーなど、人の集まりやすい曜日や時間などを検討する、と活発な意見、又アドバイスがあった。

参加いただいた内田文朗法人局長から、日本の団体の中で、

倫理法人会は二位に位置していること、(二位はライオンズクラブ、三位はロータリークラブ)、バンングラデッシュで倫理が急成長していて、十四の小学校で「十七か条」を斉唱していること、家庭の中での倫理などのお話しをいただいた。

### 座談会形式意見交換会

三月十三日(日) 午前十時から倫理事務所に於いて、内田文朗法人局長、伏木久登国際事業部長を迎えて行われ、二十九名の参加があった。

四つの班に分かれ、伏木部長からご報告があった「ブラジル会員についての感想と今後の実践」について、をテーマとして、活発な意見交換がなされた。どの班も今後の実践に積極的に取り組む姿勢が見受けられた。

#### 元気チーム

- ・ 一日の予定を立ててそれを守る
- ・ 日本の両親に週一回は電話をかけて安心させる
- ・ 姑に月一回絵手紙を送る

- ・ 「万人幸福の栞」を暗記
- ・ 言葉遣いに気をつける
- ・ 「言は心声なり」のように常に綺麗な心を持つ。愚痴らない。威張らない。悪口を言わない。
- ・ 九六歳の兄のもとへ月に一度は出かける

#### 梅ちゃんチーム

- ・ ブラジル会員の素直さに感動
- ・ 「即行」はできるが「即止」ができない。その実践に努める
- ・ 両親に感謝の心を持つ
- ・ ご先祖様・両親に繋がる実践
- ・ 早起きの実践を継続する
- ・ 「即行」の実践

#### たんぽぽチーム

- ・ ブラジル会員の素直で、活発な活動に比べ、ロスがマンネリ化している。初心に帰り改めて考えなければならぬ
- ・ いかなる小さな悩みでも、倫理指導を受けた方がよい。心を空にして臨めば、必ず解決の糸口が見つかる
- ・ 目が覚めたらすぐに起きる
- ・ 普及は大事であるが、倫理の

- ・ 勉強が足りないので他人を引き付ける魅力に欠ける
- ・ あらゆる機会をとらえ、すぐに対処する
- ・ この環境では隣人に声がけするのは難しい

#### 竹の子チーム

- ・ ハリウッドスター達とも、関心をもって話しかける
  - ・ 整理整頓をする
  - ・ 「万人幸福の栞」を毎日読む
- 以上のような発表であった。最後に、伏木部長から講評をいただいた。

実践目標を高くすると、それを達成できなかった時には、罪悪感が残る。だから、自分のできる範囲の目標を設定するのがよい。倫理の勉強に、終わりはなく、永遠に続くものであるから、気負わず、喜んで楽しんで普及してもらいたい。力強い実践目標に期待している、と話した。

(川田末子記)



おめでとうございませす

『秋津書道』四月号 新年競書

- 入選 滝川政和 芸術部(碧の部)
- 一席 咲田静子 高等部 (東京)
- 九席 堀井幸江 々々
- 入選 長谷川松子 々々
- 九席 立川宏子 一般部(東京) 草書
- 七席 前田グレース 一般部(東京) 行書
- 入選 脇山由希 々々
- 三席 香山幸子 一般部(東京) 楷書
- 入選 兵頭真由美 々々
- 入選 若狭邦彦 々々
- 入選 井上郷子 々々

明朗而愛和

丙申元旦 静子五

1席 咲田 静子

強弱がよく出ており、落款まで見事に入っている。

明朗而愛和

丙申元旦 幸子五

3席 香山 幸子

のびのびと書かれました。

『しきなみ』四月号

- 群螢集(西東京・海外)
- 入選 ホン史子
- 真砂集(西東京・海外)
- 入選 杉野和子
- 飛雲集(西東京・海外)
- 入選 伊澤潤子
- 清泉集(中東京・海外)
- 一席 尾崎よしみ
- 日系のパイオニアたちの熱き夢若い世代に繋げていこう
- 【評】はるばる日本から移民された開拓者たちの思いや夢を、若い世代に繋げたい作者の真摯な姿が詠めています。(選者 本窪田嘉子)

倫理文化講演会にお出で下さい

講演会が間近に迫りました。皆さんの展示作品も仕上がっています。日曜の午後、良い時間を過ごしましょう。お友達をおさそいして、おいでください。

しきなみ短歌

時来たり男孫の一步成功しへっぴり腰の二歩目三歩目  
松永典子  
クリスマス輝きました街並みとジングルベルで心豊かに  
尾崎よしみ

ナベエラのつるのかわぶき馬小屋根(ばこやね)にはやし黄物が咲き日々楽し 与那覇寛雄  
思いきり青空に描くジェット雲やがて溶けてく 一本の線 森田のりえ  
息子の顔をジッと見詰めて「純一か」と目が細くなりほころぶ姑の面 草野律子

雨降らず十月もすぎた冬の日に霧ふくような雨とはなりぬ 摺木洋子  
漆黒の静かな空に鳴り響く心にしみる除夜の鐘の音 松元依子  
夕立の疾風の中に咲きしなう紅き椿の命惜しかり 滝川歌子

師走きてあれもこれとも思いしも動き鈍りて心急く日々 杉野和子  
気がつけばアツと云う間に年の暮月日の早さにボケるヒマなし 長谷川松子  
琴の音に合わせて和太鼓たたくのは青い瞳の可憐な乙女 伊澤潤子

「元氣だよ」母の笑顔が目映る電話の先のわたしの宝 飯田隆  
柿の木はたわわに実り熟したる友らと食めば思うは古里 梅本豊造  
幼子の数多の願い叶う可く世界を駆けるサンタクローズは 梅本和子

荒波に長き歲月くだかれて奇岩のあまた能登の海辺は 門園美枝子  
裸木の先に一片残りたる枯れ葉が微かな風に震える ホン史子

ベニシジミ捕まえてと言いたげに少し飛んでは行く手に止まる 甲斐靖幸